

平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウルメイワシ

学名 *Etrumeus teres*

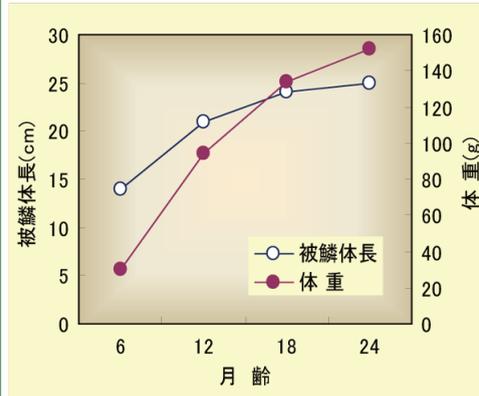
系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 2歳前後
 成熟開始年齢: 9カ月(一部)、12カ月(100%)
 産卵期・産卵場: 10～7月で、盛期は2～7月と11～12月の年が多い、沿岸域
 索餌期・索餌場: 周年、沿岸域
 食性: 動物プランクトン等
 捕食者: 中大型浮魚等

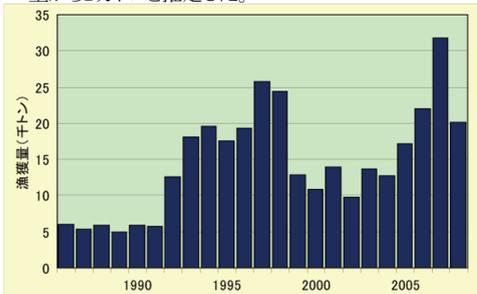


漁業の特徴

日向灘～豊後水道のまき網による漁獲が最も多い。各地の定置網に入網し、和歌山県の棒受網、高知県の多釣釣りでも漁獲する。シラス期は船びき網で漁獲する。外国船による漁獲はない。

漁獲の動向

宮崎県～三重県の合計の漁獲量は1991年までは低水準であったが、1992年に急増し、1993年から1998年まで1万8千～2万6千トンと高水準であった。1999年から2005年まではおおむね1万トン台で推移したが、2006年は2万2千トン、2007年は3万2千トンと増加した。2008年は統計数値としては3万トンを上回るが、関係機関集計による主要水揚量から2万トンと推定した。

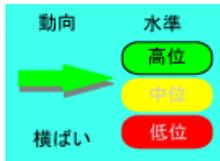
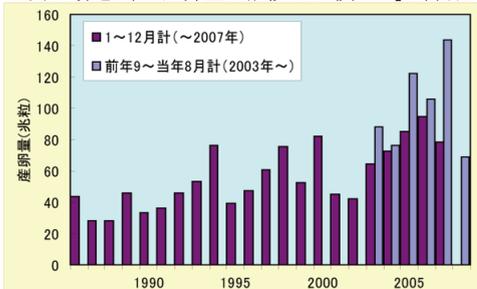


資源評価法

資源水準は産卵量調査結果により、判断することとしている。関係機関と水産研究所による改良型ノルバックネットの鉛直曳採集結果に基づき、中央水産研究所がとりまとめた月毎の産卵量データを用いた。なお、今年度においては、各年級に対する産卵期を前年9月～当年8月とし、その期間における産卵量の集計値を用いることとした。

資源状態

2004年産卵期から2007年産卵期まで産卵量の増加が続いたが、2008年産卵期は減少した。しかしながら、依然として高い水準にあると考えられたことから、資源水準は「高位」、動向は最近5年の産卵量の推移から「横ばい」と判断した。



管理方策

水準・動向が高位・横ばいにある本資源の管理目標としては、現状の平均的な漁獲量の継続と考え、ABClimitは2006～2008年の平均漁獲量×係数1とした。なお、この係数は十分な理由があれば1よりも大きい数値を用いることができるが、産卵量並びに漁獲量が最近年で減少したことから1とした。ABCtargetは、ABClimit×安全率0.8とした。

2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
----------	------	----	------

ABClimit	25千トン	Cave3-yr	-	-
ABCtarget	20千トン	0.8Cave3-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 資源量の水準・動向は産卵量で判断した
- 2008年産卵期の産卵量は減少したが、依然高い水準にある
- 2008年漁獲量は2007年を下回ったが、依然高い水準にある

管理方策のまとめ

- 管理目標としては、現状の平均的な漁獲量の継続とした
- 2006～2008年の平均漁獲量を生物学的許容漁獲量の上限值とした
- 産卵量で資源水準と動向を判断し、平均漁獲量に基づいてABCを算定する場合、産卵量が少なく近年の漁獲量が多い場合にはABCが過大になる恐れがある

資源評価は毎年更新されます。